

Tour of Japan 2022

新型コロナウイルス感染症対策マニュアル

※当内容は、今後感染状況等に応じて変更になる場合があります。



Tour of Japan 組織委員会

■2021年大会からの変更点（抜粋）	3
■はじめに	
本マニュアルの目的	4
用語の定義	4
■イベント主催者が行うべきこと	
1. グローバルリスク評価	6
2. パンデミックの評価	7
3. パンデミックの状況に応じた様々な対策	7
4. レースイベントを開催するために最適なこと	9
5. 情報の交換	11
■TOJ開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン	
TOJ開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン	12
開催期間中（各々の会場入り～22日）の注意点まとめ	19
■TOJにおけるバブル方式	20
■TOJ開催中止の判断基準	21
■検温・健康状態の記録	22
■テレサ使用説明書（セミバブル）	23
■コロナ対策チーム	
組織体制図	29
感染症専門家／医師	30
■コロナ対策 連絡先一覧	
TOJコロナ対策担当者	31
各都県指定相談窓口・保健所	32
■各開催地における医療機関一覧	33
■感染疑い発生時の緊急対応フロー（レース会場）	35
■感染疑い発生時の緊急対応フロー（レース会場外）	36
■感染疑い発生時の緊急対応フロー（陽性確定時）	37
■一般観客のTOJ観戦について	
TOJ観戦	38
各開催会場	38
■会場における検温所体制	
検温所の概要	39
信州飯田ステージ	40
富士山ステージ	41
相模原ステージ	42
東京ステージ	44
■会場設置注意喚起看板（全ステージ共通）	45
■コロナ対策備品リスト	46
■参考・出典	48

2021年大会からの変更点（抜粋）

●バブルの条件

2021年大会	2022年大会
<p>対象：レースバブル</p> <p>■大会参加72時間以内に受けたPCR検査の陰性証明</p>	<p>対象：レースバブル</p> <p>▼いずれかの条件を満たすこと</p> <p>①2回目のワクチン接種から7日経過～9カ月以内</p> <p>②コロナ感染によるPCR検査陽性判明後11日から6カ月以内</p> <p>③コロナ感染から6ヵ月経過後は、ワクチン接種必須とし、接種から7日経過～9カ月以内</p> <p>④大会参加前2日以内のPCR検査陰性証明（ワクチン未接種の場合は必須）</p> <p>※UCIでは、3回目のワクチン接種を推奨</p>
<p>対象：セミバブル</p> <p>■大会参加1週間前に受けたPCR検査の陰性証明</p> <p>に加え、</p> <p>■大会参加前24時間以内に受けた抗原検査の陰性確認</p>	<p>対象：セミバブル</p> <p>■大会参加3日前に受けた抗原検査の陰性確認</p> <p>■大会参加24時間以内に受けた抗原検査の陰性確認</p> <p>※ワクチン未接種の場合、大会参加3日前にPCR検査で陰性を確認すること</p>

●健康観察記録の媒体について

2021年大会	2022年大会
<ul style="list-style-type: none"> ・使用媒体：googleフォーム ・提出タイミング：朝夕2回 ・提出期間：2週間前から大会当日 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用媒体：テレサ（開発元/アルビレックス新潟） ・提出タイミング：毎朝10時まで ※大会中は宿泊施設出発前 ・提出期間：大会10日前から大会5日後 5/8(日)～5/27(金)

●観客について

2021年大会	2022年大会
<ul style="list-style-type: none"> ・無観客 ・感染自粛の呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・有観客 ・観客はマスク着用 ・会場ではサーモグラフィーによる検温

本マニュアルの目的

●目的

2019年末から発生し、全国に拡大している新型コロナウイルス感染症が未だ猛威を振るい、様々な大規模イベントの中止や商業施設の休業など、現在も社会的に大きな影響を受けています。

このコロナ禍において、安心・安全なイベント開催を実現するため、新型コロナウイルスの基礎知識を整理するとともに、イベント実施時の感染予防対策を明確に示し、最大限リスクを低下させることを目的としています。

また、万が一、イベント実施時に新型コロナウイルス陽性者が発生した場合は、迅速かつ確な対応を行うためのツールとなるよう、適宜アップデートを行うものです。

用語の定義

●新型コロナウイルス感染症

「新型コロナウイルス（SARS-CoV2）」はコロナウイルスのひとつです。コロナウイルスには、一般の風邪の原因となるウイルスや、「重症急性呼吸器症候群（SARS）」や2012年以降発生している「中東呼吸器症候群（MERS）」ウイルスが含まれます。

ウイルスにはいくつか種類があり、コロナウイルスは遺伝情報としてRNAをもつRNAウイルスの一種（一本鎖RNAウイルス）で、粒子の一番外側に「エンベロップ」という脂質からできた二重の膜を持っています。自分自身で増えることはできませんが、粘膜などの細胞に付着して入り込んで増えることができます。

ウイルスは粘膜に入り込むことはできますが、健康な皮膚には入り込むことができず表面に付着するだけと言われています。物の表面についたウイルスは時間がたてば壊れてしまいます。ただし、物の種類によっては24時間～72時間くらい感染する力をもつと言われています。

手洗いは、たとえ流水だけであったとしても、ウイルスを流すことができるため有効ですし、石けんを使った手洗いはコロナウイルスの膜を壊すことができるので、更に有効です。手洗いの際は、指先、指の間、手首、手のしわ等に汚れが残りやすいといわれていますので、これらの部位は特に念入りに洗うことが重要です。また、流水と石けんでの手洗いができない時は、手指消毒用アルコールも同様に脂肪の膜を壊すことによって感染力を失わせることができます。

●濃厚接触者

濃厚接触者は、新型コロナウイルスに感染が確認された方と近距離で接触、或いは長時間接触し、感染の可能性が相対的に高くなっている方を指します。

濃厚接触かどうかを判断する上で重要な要素は、距離の近さと時間の長さです。

必要な感染予防策をせずに手で触れること、または対面で互いに手を伸ばしたら届く距離（1m程度以内）で15分以上接触があった場合に濃厚接触者と考えられます。

新型コロナウイルス感染者から、ウイルスがうつる可能性がある期間（発症2日前から入院等をした日まで）に接触のあった方々について、関係性、接触の程度などについて、保健所が調査（積極的疫学調査）を行い、個別に濃厚接触者に該当するかどうか判断します。

なお、15分間、感染者と至近距離にいたとしても、マスクの有無、会話や歌唱など発声を伴う行動や対面での接触の有無など、「3密」の状況などにより、感染の可能性は大きく異なります。そのため、最終的に濃厚接触者にあたるかどうかは、このような具体的な状況をお伺いして判断します。

はじめに

●感染確認に使用される検査

新型コロナウイルス感染症を診断するための検査には、PCR検査、抗原定量検査、抗原定性検査等があり、いずれも被検者の細胞内にウイルスが存在しているかどうかを調べるための検査です。

(1)核酸検出検査

ウイルス遺伝子（核酸）を特異的に増幅する PCR（polymerase chain reaction）法が用いられます。検体中に遺伝子が存在しているか否かを定量的に確認する方法として、リアルタイム RT-PCR、簡便かつ短時間で結果判定ができる核酸検出方法として、LAMP（loop-mediated isothermal amplification）法や TMA（transcription mediated amplification）法等、等温で反応が進む簡易法が開発されています。

○リアルタイムRT-PCR

リアルタイム RT-PCR は定量法で、ウイルス量の比較や推移が評価でき、コピー数が推定できること等から信頼性が高いです。

○リアルタイムRT-PCR 以外のLAMP法、TMA法等の等温核酸増幅法

LAMP法やTMA法等は、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）遺伝子の検出までの工程が短縮され一定温度で実施可能な遺伝子検出法です。リアルタイムRT-PCRと比較して感度は落ちますが実用範囲で、反応時間が35～50分程度と短いといった利点があります。

(2)抗原検査

SARS-CoV-2の構成成分である蛋白質を、ウイルスに特異的な抗体を用いて検出する検査法です。核酸検出検査と同様に陽性の場合にはウイルスが検体中に存在することを示します。抗原検査には、定性検査と定量検査があり、抗原定性検査は有症状者においてウイルスの抗原を検出し、診断に導く検査であり、症状発症から9日目以内の症例では確定診断として用いることができます。

無症状者に対する抗原定性検査は、リアルタイム RT-PCR 法等と比較し感度が低下する可能性があるため、確定診断として用いることは推奨されません。

抗原定量検査は、専用の測定機器を用いてウイルス抗原の量を定量的に測定することができます。検査に抗原と抗体反応のウォッシュ過程があり、特異度も高く、感度も簡易な核酸検出検査と同レベルであり、無症状者に対する唾液を用いた検査に使用可能なことが示されているため、空港検疫等でも活用されています。

(3)抗体検査

抗体検査はウイルスを検出する検査ではなく、ウイルスに対する抗体の有無を調べる検査です。

陽性となる時期は症状出現後、1～3週間経ってからとされています。これはウイルスRNAが検出されなくなる時期と重なり、一般に感染歴の指標に使用されますが、抗体検査が陽性であっても、その時点で被検者からウイルスが排出されていることを意味するものではありません。

●隔離

症状のある人や感染者を他の人から隔離し、感染や汚染の広がりを防止するものです。

●フィジカル・ディスタンス

感染予防に特化した言葉で、テレワークや人数制限、人と人との十分な間隔を空けるといった「感染拡大の防止に向けて身体的・物理的距離の確保」を指します。

●バブル方式、レースバブル

スポーツ界で主に採用される、開催地や会場を大きな泡で包むように大会を運営し、選手や関係者の外部との接触を遮断する方法を「バブル」方式と呼びます。

自転車ロードレースにおいては、選手やチーム関係者のバブルを「チームバブル」、競技審判（コミセール）のバブルを「コミセールバブル」とし、合わせて「レースバブル」としています。

イベント主催者が行うべきこと

1. グローバルリスク評価

イベント開催中にウイルスの感染拡大及び、そのリスクを軽減するための適切な手段を決定することを目的とした評価です。基本的には国内外の感染状況や、WHOによって更新されるガイドラインを基に決定します。

1-1 COVID-19 に関するリスク評価

以下の6つの質問事項に対し、当てはまれば1、違っていれば0を付けてその大会が今どのくらいのリスクがあるのかを評価する。トータル数字を計算し、合計を出す。

- ・このイベントはCOVID-19が発生している国で開催されるか。
- ・このイベントは複数の都市や地域などで開催されるか。
- ・このイベントはCOVID-19が発生している国からの参加者が含まれているか。
- ・このイベントは室内で行われるか。
- ・このイベント参加者の中には、COVID-19に感染することで大きな影響を受ける人がいるか。
(例：障害をもった人や健康的ではない人等)
- ・このイベントはCOVID-19の感染拡大をする条件がふくまれているか。
(例：大勢でのスタート、大勢でのゴール、フィジカル・ディスタンスの制限等)

1-2 最終決定のマトリックス

リスクと、リスク軽減のマトリックスはリスク評価(1-1)の合計点と、リスク軽減のスコアを組み合わせて拡散などのリスクを「色」で表します。色によってそのイベントの開催リスクの決定が行われます。

Total Risk Assessment Score	COVID-19感染症の影響を低減するため万全な準備がされている (76-100)	COVID-19感染症の影響を低減するための準備がややされている (51-75)	COVID-19感染症の影響を低減するための準備がややされていない (26-50)	COVID-19感染症の影響を低減するための準備がされていない (0-25)
0-Negligible	Very Low	Very Low	Very Low	Very Low
1-Very Low Risk	Very Low	Very Low	Low	Low
2-Low Risk	Low	Low	Low	Moderate
3-Moderate Risk(low-moderate)	Low	Moderate	Moderate	Moderate
4-Moderate Risk(high-moderate)	Moderate	Moderate	High	Very High
5-High Risk	High	High	Very High	Very High
6-Very High Risk	Very High	Very High	Very High	Very High

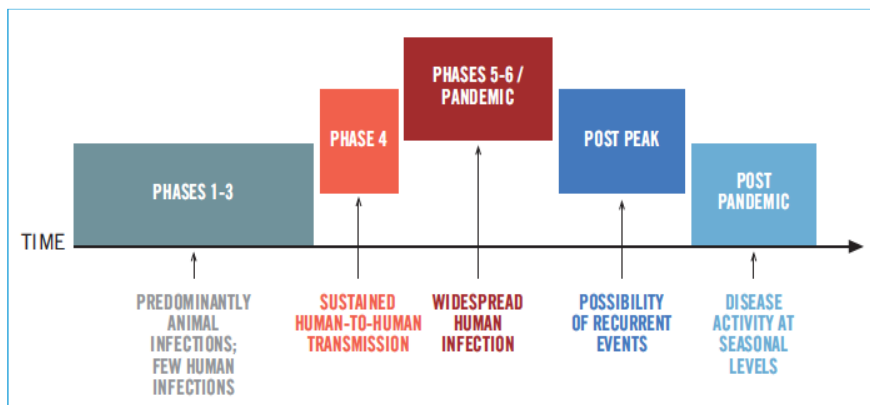
【評価シート凡例】

Very Low	イベント実施、施設再開に伴う新型コロナウイルス感染拡大リスクは非常に低いと考えられる。
Low	イベント実施、施設再開に伴う新型コロナウイルス感染拡大リスクは非常に低いと考えられる。さらなるリスク低減措置を取ることができないか検討することを推奨。
Moderate	イベント実施、施設再開に伴う新型コロナウイルス感染拡大リスクは中程度と考えられる。積極的にリスク低減措置をとる努力を行うことを推奨。
High	イベント実施、施設再開に伴う新型コロナウイルス感染拡大リスクは高いと考えられる。積極的にリスク低減措置をとる努力を行うとともに、外部環境の状況を踏まえイベントの実施、施設再開判断を行うことを推奨。
Very High	イベント実施、施設再開に伴う新型コロナウイルス感染拡大リスクは非常に高いと考えられる。

イベント主催者が行うべきこと

2. パンデミックの評価

基本的な基準はWHO が定めたものを参考にする。イベント主催者は、各国の感染者数と、R0 と呼ばれる1 個人が感染し、その個人が他人に移す可能性がある人数を示す数値を知るために、地域または、国の保健当局に連絡する必要があります。その結果でパンデミックの判断を決定します。



2-1 パンデミックの段階

パンデミックは何種類かに分類されるが、自転車競技はフェーズ1~4、パンデミック後フェーズの5種類のみ開催されるべきであると考えます。(基本は地方自治体または、国の当局の権限化にあります)

2-2 パンデミックの評価について

主催者は、大会2週間前までに、「過去14日間の平均値」をもとに判断し、UCIに提出します。

その後、変更があった場合は、都度更新し、報告をします。

3. パンデミックの状況に応じた様々な対策

WHO の定めるフェーズレベルで3つのリスクレベルに分けられます。そのレベルによって、対応レベルも変わります。(詳細は次ページの表参照)

各地域、或いは各国当局によって決定がくだされた場合でも、自転車競技大会は、次に示すパンデミックの段階でのみ開催が可能であることを考慮することが妥当です。

ー 中程度のリスク期間 (WHOフェーズ4)

動物媒介性コロナウイルスの人と人の間での感染が確認され、「流行の発生」を引き起こす可能性がある。必ずしもパンデミックが避けられないことを意味するものではない。

ー 低リスク期間 (WHOフェーズ3、ピーク後期間)

- ・ フェーズ3：散発性感染、或いは呼吸器感染症の小さなクラスターを引き起こすコロナウイルスの循環がある。人から人への感染は、アウトブレイクの発生には十分ではない。

- ・ パンデミックピーク後：パンデミック活動は減少しているように見えるが、新たな波が起こるかどうかは定かではない。

ー 非常に低いリスク期間 (WHOフェーズ1、2、パンデミック後期)

コロナウイルスが人に感染を引き起こしたことが確認され、野生及び家畜(動物観流行状況)に存在が確認される。或いはコロナウイルスが季節性ウイルスと同等の状態になる。

イベント主催者が行うべきこと

パンデミックの状況に応じた様々な対策		高いリスク	中程度のリスク	低いリスク	
イベント前の対策	COVID-19コーディネーターの任命	主催者必須	主催者必須	主催者必須	
	宿泊時のバブルの維持	主催者必須	主催者必須	推奨	
	隔離部屋	主催者必須	主催者必須	推奨	
	チーム内の感染予防対策	チーム必須	チーム必須	推奨	
	帰国前のPCR受検機関情報の共有	チーム必須	推奨	推奨	
チームバブルに入る条件	ウイルスの臨床検出キャリア (既往歴を含めた健康チェック)	チーム必須	チーム必須	推奨	
	COVIDテストプログラムの実施 (PCR検査)	チーム必須	チーム必須	推奨	
チームバブルの維持	個々の衛生面に関する情報	主催者必須	主催者必須	推奨	
	個人用防護服の用意	主催者必須	主催者必須	推奨	
	複数経路の確保	主催者必須	主催者必須	推奨	
	ソーシャルディスタンスの確保	主催者必須	主催者必須	推奨	
	更衣室の使用禁止	推奨	推奨	推奨	
	国のルールに従った スタート/フィニッシュエリアの観客制限	主催者必須	主催者必須	推奨	
	観客と選手の距離を維持	主催者必須	主催者必須	主催者必須	
	観客へのマスク着用の推奨	主催者必須	推奨	推奨	
	共有場所の清掃と消毒	主催者必須	主催者必須	主催者必須	
	ゴミ箱の提供	主催者必須	主催者必須	主催者必須	
イベント中	レース日の朝の健康診断	チーム必須	チーム必須	推奨	
	出走登録の調整	主催者必須	主催者必須	推奨	
	スタート/フィニッシュエリアへのアクセス制限	主催者必須	主催者必須	推奨	
	フィードゾーンの調整	主催者必須	主催者必須	推奨	
	運営組織/チーム車両の使用規制	主催者必須	主催者必須	推奨	
	フィニッシュ後のハグ禁止	チーム必須	主催者必須	推奨	
	表彰選手の制限	主催者必須	推奨	望ましい	
	表彰選手のマスク着用	主催者必須	推奨	望ましい	
	表彰台ブロックを1.5m離して設置	主催者必須	主催者必須	推奨	
	1.5mの表彰台前ブロックを設置	主催者必須	推奨	望ましい	
	個人表彰などの検討	主催者必須	推奨	望ましい	
	ライダー同士が触れないようにする	主催者必須	推奨	望ましい	
	フォトグラファーの制限	主催者必須	主催者必須	推奨	
	表彰台周辺の歩行者片道道路	主催者必須	望ましい	望ましい	
	アンチドーピングとの連携	主催者必須	主催者必須	主催者必須	
	COVID-19疑いがある場合	COVID-19医師の任命	主催者必須	主催者必須	推奨
		地元保険当局との調整	主催者必須	主催者必須	推奨
マスク提供		主催者必須	主催者必須	主催者必須	
医療専門家への防護服の提供		主催者必須	主催者必須	主催者必須	
陽性者の管理手順を送る		主催者必須	主催者必須	主催者必須	

イベント主催者が行うべきこと

4. レースイベントを開催するために最適なこと

大会を行う上でチームを「バブル」と呼ばれる泡の中に入るような状態(外からの接触を防ぐ)をつくる。そうすることで、健康状態がチェックされていない人々との直接的で無防備な接触を制限することに繋げる。

4-1 イベント前の準備

- (1) 主催者と保険当局との間を担うCOVID-19コーディネーターを任命。
- (2) 宿泊施設の手配では、可能であれば各チーム1つのフロアを使い、チーム間の距離をとること。各ホテルには必要な予防策や、清掃と消毒に関する施行規則を伝えておく必要がある。
(部屋の掃除、フィジカル・ディスタンス、手洗い、マスク着用等)
- (3) 隔離部屋の配置。可能であれば、各チーム1部屋。
- (4) チームに予防通知を行う。
- (5) 入国規制やホテル・レストランへのアクセス、ヘルスパス等の情報をチームに共有する。
- (6) 帰国時に自国へ入国できるよう、PCR受検機関情報をチームに共有する。

4-2 イベント前の対策

- (1) 関係者・(観客を除く)参加者は、大会開催10日前から大会終了5日後(2022年5月8日~27日)まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。
- (2) バブルに入るには、各バブルの参加条件を満たす必要がある。
- (3) ワクチン未接種の場合は、レースバブル対象者は大会参加前2日以内のPCR検査陰性証明が必要、セミバブル対象者は大会参加前3日以内のPCR検査陰性証明が必要。
- (4) 地方各地の病院や救急関係と連絡を取り、パンデミック中にけが人を処置できるか確認しておかなければならない
- (5) COVID-19 担当医師の選定。
- (6) 個々の感染予防対策の情報を共有する。
- (7) 個人保護服の使用に関する情報の提供。
- (8) 担当のカテゴリごとに別々の経路を用意し、マスク着用やフィジカル・ディスタンスを促す。
 - メディアゾーン内
 - オフィシャルゾーン内
 - VIP エリア内
- (9) 更衣室などの共用エリアの使用禁止。
- (10) 国のルールに従い、スタート/フィニッシュエリアへの観客制限を行う。
- (11) トイレを中心としたよく触れるすべての箇所の定期的な清掃と、手指消毒剤の利用。
- (12) 汚染用ごみ箱の提供。

4-3 イベント中/レース中

- (1) フェイスマスクを正しく着用し、口と鼻を覆う。(選手は、ウォーミングアップ/トレーニング/レース/レース後の積極的な回復時を除く)
- (2) チームの責任下で選手の健康診断を毎朝行う。
- (3) フィジカル・ディスタンスを意識し、密集を作らないようにスタートリストにサイン及びバイクチェックを促すよう促す。
- (4) フィーディングゾーンの調整。
- (5) スタート/フィニッシュエリアのアクセス制限。
 - スタートエリアには重要な人々のみアクセスを許可。
開始数分前に選手のフェイスマスクを回収。
 - フィニッシュエリアでは、フェイスマスクを着用した重要な人(各チーム1~2名+数名のフォトグラファー)のみアクセスを許可。

イベント主催者が行うべきこと

- (6) 運営組織/チーム車両の使用規制。
 - 車内ではフェイスマスクを着用し、気象条件によっては窓を半分開ける。
- (7) フィニッシュ後に選手同士で抱擁しないことを選手に求める。
- (8) COVID-19 感染の疑いがある人の管理
 - 疑いがある場合はすぐに大会で委託しているCOVID-19コーディネーター及び専門医師に通知する。
 - 委託されたCOVID-19コーディネーター及び専門医師は、その患者のフォローアップをする。
 - COVID-19コーディネーター及び専門医師は、チーム医師と地元保険当局と協力し、接触症例を特定する。
 - COVID-19コーディネーター及び専門医師の責任のもと、臨床検査プロトコルの実施、最寄りのCOVID-19患者受け入れ可能な医療機関への引き渡しを行う。

4-4 レース後

- (1) 表彰式の調整
 - 表彰者のマスク着用。
 - 表彰台に登れる人数を限定する。
 - 表彰台ブロックを1.5m 離す。
 - 表彰中は選手同士が触れないようにする。
 - フォトグラファーの限定
 - ソーシャルディスタンスの徹底
 - 表彰エリア付近での歩行者用片道交通計画を作成する。
 - 手指の消毒後に選手自身でメダルを受け取れるシステムを作る。
 - 表彰台に立つ前の順番待ちで1.5m の表彰台ボックスを作成する。

4-5 イベント終了後

- (1) 関係者・(観客を除く)参加者は、大会開催10日前から続き、大会終了5日後(2022年5月8日～27日)まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリ(テレサ)にて提出必須。
- (2) 大会の関係者や参加者で、大会終了から1週間の間に新型コロナ感染症を発症、陽性を確認した場合は、大会COVID-19コーディネーター、または主催者への電話またはメールにて報告を必須とする。

○新型コロナ対策チーム/大会COVID-19コーディネーター

福島 圭介 ((株)ピースフル)

電話：090-6156-1313

Mail：fukushima@peaceful-hp.com

○大会安全・環境対策マネージャー

村山 吾郎 ((一財)日本自転車普及協会)

電話：03-4334-7952

Mail：murayama@jifu.jp

イベント主催者が行うべきこと

5. 情報の交換

大会開催に必要な情報交換を促進するために、UCIは3つの安全なデータストレージを開設する。開設目的は、下記の3つである。

- ①主催者が特定の健康関連対策の実施に関する情報をチームに共有するため
- ②チームがイベントに参加する選手やスタッフの現在のワクチン接種の状況をUCIに通知するため
- ③チームがUCIヘルスパスのステータスを報告するため

① データストレージ1

主催者が特定の健康関連対策の実施に関する情報をチームに提供し、共有する。この情報は遅くともイベント開始の14日前にアップロードすること。

- 地域の疫学的状況
 - 直近2週間の10万人あたりの新規感染者数値
 - 1週間の陽性検査の割合
 - 1週間の10万人あたり検査数
- イベントで適応されるヘルスパス内容
- COVID-19 感染疑いのある患者についての管理方法について
- 実施されている感染リスク軽減の概要
- 登録済チーム連絡先とリストのアップロード

② データストレージ2

チームドクターまたはチームが指名したその責任下にあるスタッフに開放され、下記2種類の情報の通知が求められる。これらの情報は、UCIメディカルディレクターのみ閲覧可能。

- ワクチン接種状況
- 公式のワクチン証明書

③ データストレージ3

チームドクターが各レース前にUCIヘルスパスのステータスを報告。



Tour of Japan 2022 開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

I. はじめに

本ガイドラインは、ツアー・オブ・ジャパン 2022(以下「TOJ」)を開催するにあたり、参加者における新型コロナウイルス感染症拡大防止、リスク軽減のための対策について、各機関の提言等を参考に TOJ 開催に特化し、作成したものです。TOJ に参加する皆様には、本ガイドラインに沿った予防対策を必ず実施いただくよう、お願いいたします。

なお、大会の開催に際しては、日本政府(厚生労働省、スポーツ庁、日本スポーツ協会、JOC などを含む)ないしは、開催地の各都府県の方針に従うことが大前提となります。また、大会参加・運営等に伴う移動・宿泊等に関しては、国土交通省・観光庁等、関連する諸機関の指針に準拠します。

(参考資料)

- 「Emergency rules to be followed for the resumption of the road cycling season in the context of the coronavirus pandemic—コロナウイルスパンデミックに関連したロードシーズン再開にあたって守られるべき手順について」
—国際自転車競技連合(以下「UCI」)
<https://www.uci.org/road/news/2020/covid-19-pandemic-how-to-return-to-cycling-events>
- 「Rules to be applied for the organisation of road cycling competitions in the context of the COVID-19 pandemic—ロードサイクリング競技会の開催に適用される規則 COVID-19 パンデミックの環境で」—UCI
<https://www.uci.org/pressrelease/the-uci-updates-its-covid-19-health-protocol-for-road-cycling-events-in-2022/6WypWl73KKKKR6k3wkq0sR>
- 「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」—公益財団法人日本スポーツ協会
<https://www.japan-sports.or.jp/about/tabid1278.html>
- 「緊急事態宣言解除後の大会開催に向けたガイドラインについて」—公益財団法人日本自転車競技連盟
https://cutt.ly/JCF_guidelineaboutcovid-19
- 「新型コロナウイルス感染症に関する国土交通省の対応」—国土交通省
<https://www.mlit.go.jp/kikikanri/kikikanri tk 000018.html>
- 「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)病原体検査の指針」—厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/content/000678571.pdf>

II. TOJ 開催における対策事項

1. TOJ 全体の対策事項

- (1) 感染症対策チームの設置、帯同(医師を含む)。
- (2) TOJ ホームページにおける関係者・参加者・観客に向けた本ガイドラインの掲載及び周知。
- (3) 関係者・(観客を除く)参加者は、大会開催 10 日前から大会終了 5 日後(2022 年5月 8 日～27 日)まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。大会開催初日をライセンスコントロールが実施される 5 月 18 日(水)と考える。
- (4) 大会期間中は、バブル方式を取り入れた感染症防止対策を実施する。
バブル方式の内訳については、後述の「2. バブル方式によるコロナ対策」を参照。
また、大会で規定されたバブルに所属する参加者は、バブル毎に規定する後述項目 3～5 の対策事



項を遵守する。

- (5)感染者発覚後の隔離(スペース確保を含む)、医療機関受診、濃厚接触者の確認等プロセスの明確化。
- (6)感染症罹患者が発生した場合に備え、各開催地における医療機関や保健所と連携を図る。
- (7)大会会場における入退場動線作成及びサーマルカメラ設置による検温を実施し、発熱者や体調不良者は入場禁止。
- (8)大会会場の各所に、手指消毒液及び感染防止対策注意喚起看板を配置。
- (9)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底。
- (10)フィジカル・ディスタンスに留意し、常時マスクを着用する。
- (11)各食事会場、食事中においては、フィジカル・ディスタンスに留意し、極力会話を控える。
- (12)大会コミュニケ、スタートリスト、リザルト等は、極力メーリングリストや SNS を使用した配布とし、ペーパーレス化を図る。
- (13)以下に該当する方は、大会へのいかなる参加(大会会場への来場、観戦含)も不可とする。
 - ①過去 1 週間以内から大会会場来場当日までに、下記 a~d を含む体調不良のある方
 - a. 体温 37.5℃以上
 - b. 強い倦怠感
 - c. 感冒様症状(咳、咽頭痛、息苦しさ等)
 - d. 味覚・嗅覚異常などの異変がある
 - ②PCR、LAMP、抗原検査受診結果が陽性で、下記 a~d に該当する方
 - a. 有症状で、発症日から 10 日未満、かつ症状軽快後 72 時間以内
 - b. 症状軽快後 24 時間経過から、24 時間以上の間隔をあげ、2 回の PCR 検査で陰性を確認できていない
 - c. 無症状病原体保有者では、陰性確認から 10 日未満
 - d. 検体採取日から 6 日間経過後、24 時間以上の間隔をあげ、2 回の PCR 検査陰性を確認できていない
 - ③濃厚接触者として自宅待機中、または家族が濃厚接触者として自宅待機中
 - ④家族に①の a~d いずれかの体調不良者がいる

2. バブル方式によるコロナ対策

大きな泡で包むように大会を運営し、選手や関係者の外部との接触を遮断する対策を「バブル」方式という。バブルの内訳については、以下の通りとする。

(1)チームバブル

【対象】TOJに参加する全チームの選手、監督、メカニック、マッサージ、スタッフ、広報

(2)コミセールバブル

【対象】TOJで全ステージを通して執務するコミセール

上記の(1)、(2)を合わせて「レースバブル」とする。

(3)セミバブル

【対象】TOJ全ステージにおいて執務する関係者

- ニュートラルサービス
- オフィシャルメカニック



- レースドクター
- 大会ディレクター、事務局スタッフ
- レース実況、セレモニーMC
- 設営・運営担当
- 宿泊・輸送担当
- 広報(メディア)担当
- ライブストリーミング担当
- セレモニー担当
- 競技計測担当
- 新型コロナウイルス感染症対策チーム

(4)その他:バブル外

【対象】(1)~(3)に含まれないすべての方

レースバブルとの接触は原則不可とする

やむを得ない事情がある場合は、三密(密閉・密集・密接)を避け、双方マスク着用の上、バブル外の方は更にフェイスガードを着用、フィジカル・ディスタンス2m以上を保ち、15分以内に留めること

3. チームバブル(選手、チームスタッフ、チーム広報)の対策事項

- (1) 大会開催 10 日前から大会終了 5 日後(2022 年5月 8 日~27 日)まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。大会開催初日をライセンスコントロールが実施される 5 月 18 日(水)と考える。
- (2) 大会で規定されたレースバブルに該当する参加者が、チームバブルに所属するには、以下のいずれかの条件を満たしていること。
 - ① 2 回目のワクチン接種から 7 日経過~9 カ月以内
 - ② コロナ感染による PCR 検査陽性判明後 11 日から 6 カ月以内
 - ③ コロナ感染から6か月経過後は、ワクチン接種必須とし、接種から 7 日経過~9 カ月以内
 - ④ 大会参加前 2 日以内の PCR 検査陰性証明(ワクチン未接種の場合は必須)※UCI では、3 回目のワクチン接種を推奨
- (3) 大会期間中、発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、直ちにチーム監督を通じ、コロナ対策チームへ申し出、隔離状態を確保の上、保健所または医療機関へ連絡し、受診等の指示を仰ぎ、大会会場には来場しない。
- (4) チームメンバーは、大会期間中、常時マスク着用を必須(選手はレース中を除く)とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。
- (5) 大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、レース以外の不要不急の外出を自粛する。
- (6) レース前の出走サインは省略とし、IC タグのチェックで出走確認を行う。
- (7) レース補給地点へは決まった補給員のみ配置し、補給の際はマスク、手袋を着用する。
- (8) 会場チームピット内は、基本的にチームメンバー以外の立ち入りは禁止。
- (9) チームピットや準備エリアにいる人数に応じて、フィジカル・ディスタンスを確保する。
- (10) レース中に唾や痰を吐くことは極力行わない。
- (11) 選手間のタオル、ボトルなどの共用はしない。
- (12) 補給に使用したボトル、ジェルなどは指定場所以外に捨てない。
- (13) 表彰式では、表彰対象選手は、授与されるジャージを自ら着用、副賞等を持参の上、ステージに



登壇する。

- (14)大会会場や公共の場において、ウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル、スクイズボトル等)飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。
- (15)チームに帯同する広報スタッフ(フォトグラファーを含む)はチームバブルに属するため、一般メディア及び外部との接触は禁止とし、レース中、プレス車両への乗車及びコース上のフォトグラファー・エリアへの立ち入りは不可とする。
- (16)チーム広報として帯同し、複数チームの取材を予定している場合、事前に取材予定全チームから承諾を得ること。
- (17)チームカーには、チームに帯同しているチーム広報スタッフのみ同乗可能とし、「チームカー同乗申請書」を主催者に提出必須とする。
- (18)選手、チームスタッフがチームバブル外のメディアの取材を受ける際は、必ずマスクを着用し、取材者がマスク及びフェイスガードを着用していることを確認した上で、2m以上のフィジカル・ディスタンスを保つ。
- (19)大会期間中、チームから新型コロナウイルス感染症陽性者が発生した場合、当該選手・スタッフ及び濃厚接触者は大会から除外とする。

4. コミセールバブルの対策事項

- (1)大会開催10日前から大会終了5日後(2022年5月8日~27日)まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。大会開催初日をライセンスコントロールが実施される5月18日(水)と考える。
- (2)大会で規定されたレースバブルに該当する参加者が、コミセールバブルに所属するには、以下のいずれかの条件を満たしていること。
 - ①2回目のワクチン接種から7日経過~9カ月以内
 - ②コロナ感染によるPCR検査陽性判明後11日から6カ月以内
 - ③コロナ感染から6カ月経過後は、ワクチン接種必須とし、接種から7日経過~9カ月以内
 - ④大会参加前2日以内のPCR検査陰性証明(ワクチン未接種の場合は必須)※UCIでは、3回目のワクチン接種を推奨
- (3)大会期間中、発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、直ちにJCF担当者を通じ、コロナ対策チームへ連絡、隔離状態を確保の上、保健所または医療機関へ連絡し、受診等の指示を仰ぎ、大会会場には来場しない。
- (4)コミセールは、大会期間中、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。
- (5)大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、レース以外の不要不急の外出を自粛する。
- (6)コミセールカーやオフィシャルカーは、適宜換気を行い、使用前後に車内やハンドル等の手が触れる場所の除菌、消毒を行う。また、私物や飲食物を車内に放置しない。
- (7)大会会場における施設、またはテント内では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。
- (8)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等)飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。
- (9)大会期間中、コミセールに新型コロナウイルス感染症陽性者が発生した場合、該当者及び濃厚接触者は大会から除外とする。



5. セミバブル(大会関係者)の対策事項

- (1)大会開催 10 日前から大会終了 5 日後(2022 年5月 8 日~27 日)まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。大会開催初日をライセンスコントロールが実施される 5 月 18 日(水)と考える。
- (2)大会で規定されたセミバブルに該当する参加者が、セミバブルに所属するには、以下のいずれかの条件を満たしていること。
 - ①2 回目のワクチン接種から 7 日経過~9 カ月以内
 - ②コロナ感染による PCR 検査陽性判明後 11 日から 6 カ月以内
 - ③コロナ感染から 6 カ月経過後は、ワクチン接種必須とし、接種から 7 日経過~9 カ月以内※UCI では、3 回目のワクチン接種を推奨
※ワクチン未接種の場合は、大会参加前3日以内に PCR 検査で陰性を確認すること
- (3)大会参加 3 日前に抗原検査を受け、陰性を確認した後、大会参加前 24 時間以内に 2 度目の抗原検査を受け、陰性を確認する。
- (4)大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、レース以外の不要不急の外出を自粛する。
- (5)大会期間中、体調不良等の自覚症状がある場合、直ちに所属グループ代表者を通じ、コロナ対策チームへ申し出、隔離状態を確保の上、保健所または医療機関へ連絡し、受診等の指示を仰ぎ、大会会場には来場しない。
- (6)大会関係者は、大会期間中、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。
- (7)オフィシャルカーや関係車両は、適宜換気を行い、使用前後に車内やハンドル等の手が触れる場所の除菌、消毒を行う。また、私物や飲食物を車内に放置しない。
- (8)大会会場における施設、またはテント内では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。
- (9)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、着用後のビブス、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。
- (10)大会期間中、スタッフに新型コロナウイルス感染症陽性者が発生した場合、該当者及び濃厚接触者は大会から除外とする。

6. 取材・メディアの対策事項

TOJ 取材において、チームに帯同する「チーム広報」とその他の「メディア」は、明確に区別するものとし、以下は、チーム広報を除く、一般メディア向けの対策事項とする。

- (1)大会取材を希望する際は、事前に取材申請を行い、取材同意書をメールまたは Web で提出必須。
- (2)大会開催 10 日前から大会終了 5 日後(2022 年5月 8 日~27 日)まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出必須。大会開催初日をライセンスコントロールが実施される 5 月 18 日(水)と考える。
- (3)大会の取材をする方は、以下のいずれかの条件を満たしていること。
 - ①2 回目のワクチン接種から 7 日経過~9 カ月以内
 - ②コロナ感染後、ワクチン接種から 7 日経過(感染後 6 カ月を経過した場合、ワクチン 1 回接種が必要)~9 カ月以内



- ③コロナ感染による PCR 検査陽性判明後 11 日から 6 カ月以内
- ④大会参加前 2 日以内の PCR 検査陰性証明(ワクチン接種を受けていない方は必須)
※UCI では、3 回目のワクチン接種を推奨
- (4)感染症罹患の疑いがある、または発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、大会会場に来場しない。
- (5)取材中は、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行う。
- (6)取材中は、事前に送付された不織布ビブス及び AD カードを着用し、取材後は持ち帰りの上、廃棄する。
- (7)チームピットエリアは立ち入り禁止。
- (8)チームカーへの同乗取材禁止。
- (9)可能な限りチームバブルとの接触を避け、選手・チームスタッフ等に取材を行う際は、マスクとフェイスガード着用を必須とし、2m 以上のフィジカル・ディスタンスを保つ。
- (10)取材時は、取材者同士のフィジカル・ディスタンスを十分に確保する。
- (11)プレス車両は、最大 5 名のみ乗車可能とし、乗車する際は、マスク着用を必須とし、乗車前に手指消毒を行い、車両内は座席の間隔を空けて着席し、会話は控える。また、私物や飲食物を車内に放置しない。
- (12)撮影エリア(フォトグラファー・エリア)は、設定された人数制限及びTOJ広報官の指示に従う。
- (13)スタート・フィニッシュのフォトグラファー・エリアは、最大 5 名まで入線可能とし、うち 2 名はオフィシャルフォトグラファーとする。
- (14)大会会場における施設、またはテント内等では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。
- (15)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。

7. 観客の対策事項

※大会会場来場 7 日前までに 2 回以上の新型コロナワクチン接種を推奨

- (1)TOJ ホームページに掲載するコロナ対策や本ガイドラインを事前に確認し、遵守すること。
- (2)感染症罹患の疑いがある、または発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、大会会場に来場しない。
- (3)大会会場入り口でサーモグラフィーによる検温を受け、発熱者や体調不良者は入場禁止。
- (4)大会会場では、適宜手洗い、手指消毒を行う。
- (5)大会会場内のチームピットエリアやゾーニングが儲けられたエリアへの立ち入り禁止。
- (6)大会会場及びコース沿道で周囲に人がいる場所では、常時マスク着用必須。
- (7)大会会場及びコース沿道で観戦する際は、大声での応援、発声等はしない。
- (8)大会会場及びコース沿道では、フィジカル・ディスタンスに十分留意する。
- (9)大会会場やコース沿道、公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底し、ごみを捨てない。
- (10)会場内オフィシャルグッズ販売ブースを利用する際、必ずマスク着用の上、手指消毒行うこと。

III.TOJ 開催中止の判断基準(延期はしないものとする)

- 1.日本政府より、大規模イベントの延期・自粛・中止要請が発令された場合。
- 2.UCI より、コロナ禍におけるレース大会の延期・自粛・中止要請が発令された場合。



3.大会開催前に下記のいずれかの理由により参加チームの出場辞退が発生し、出場チームが8チーム以下になる場合。

(1)チーム内で新型コロナウイルス感染症罹患者が発生し、チーム内の他の選手やスタッフも隔離が必要な場合。

(2)大会開催前に、日本政府が水際対策で指定する国や地域のレースに参加し、帰国後、待機期間が終了していない場合。

※水際対策による指定国・地域は、厚生労働省のホームページを参照

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00249.html

(3)選手の体調不良を含む傷病等の原因により、1チームの最低出場人数4名が確保できない場合。

4.大会期間中に新型コロナウイルス感染症のクラスター感染が発生した場合。

5.その他、大会を中止せざるを得ない事象が発生した場合。

このガイドラインは2022年4月15日時点でのものであり、感染状況や政府の対策方針などにに基づき、適宜更新いたします。

開催期間中（各々の会場入り～22日）の注意点まとめ

以下はガイドラインから要約した内容です。開催期間中、必ず下記を守って行動をしてください。不明点があればコロナ対策チームへお問合せください。

<コロナ対策チーム問合せ先>

所属	担当者名	連絡先
新型コロナ対策チーム 全体コーディネーター	(株)ピースフル 福島 圭介	Mail: fukushima@peaceful-hp.com TEL:090-6156-1313
新型コロナ対策チーム 運営責任者	(株)ルーツ・スポーツ ・ジャパン 増田 英行	Mail :masuda.hideyuki@roots-sports.jp TEL:090-1550-9149

***大前提として、同一バブル外の方同士の接触は極力避けて下さい**

①レースバブル・セミバブル内の接触についての基本ルール

- ・必ず3密回避、マスク着用、2m以上確保、15分以内の対話を守ってください。
- ・フェイスシールドについては、ガイドライン上ではバブル内同士（レースバブル同士・セミバブル同士・レースバブルとセミバブルの接触 全てにおいて）の接触時には必須ではありません。ただし、可能な限り着用をお願いします。
 - *特にライブ中継に映る可能性のある方
 - *バブル外の方がバブル内の方に接触する場合は、フェイスシールド必須（例：実行委員会スタッフ）

②会場以外での行動制限

- ・ガイドライン上では「レース、業務以外での不要不急の外出を控える」としています。宿泊先から出て、必要なものの調達（資材、食事）でコンビニ等を利用する事は禁止ではありませんが、必要最低限にとどめてください。
- ・感染リスクが高いのは会場内の休憩場所、宿泊先などの屋内です。基本的な感染対策を徹底してください。

③会場内での行動

- ・各ステージ会場はコーンバー、フェンス等で区画をし、原則として以下の通り2エリアに分けます。
 1. レースバブル及びセミバブル
 2. バブル外
- ・原則、自身の活動エリア内で行動をしてください。
- ・ただし、業務上必要な場合は区画を移動をする事を可能とします。
- ・区画された会場内に入れるのは、ADパス、メディアビブスを着用したスタッフと警察官、消防職員のみです。一般の方は、原則として区画された会場内には一切入れません。

④検温所及び感染対策テント

- ・スタート地点、フィニッシュ地点に検温所または感染対策テントを設置
- ・来場した観客に、サーモグラフィーカメラによる検温を実施し、発熱者や体調不良者は入場禁止とし、手指消毒やソーシャルディスタンスの確保を呼びかける

⑤コロナ感染対策装着物

- ・マスク：全員必ず着用してください
- ・フェイスシールド：ガイドライン上は必須ではありませんが、可能な限り着用をしてください。
- ・ゴム手袋：ガイドライン上、必須なのは「チーム補給員」のみですが、フェイスシールド同様、業務上支障がない方は着用を推奨します。

TOJにおけるバブル方式

TOJにおけるバブル方式

●バブルにおける原則

5月18日(水)ライセンスコントロール/監督会議から5月22日(日)東京ステージ終了までの間、下記の通り所属、業務内容に応じてバブルを分けて管理をする。

【レースバブル】

レースバブルは、ロードレースの特性上、互いに「接触」を回避できない場面があるため、「接触」がある前提で、参加条件の順守、及び当日の感染対策を徹底する。

1.チームバブル

出場16チームの選手、監督、メカニック、マッサー、広報、その他スタッフすべてのメンバー

2.コミセールバブル

大会期間を通して執務を行うコミセールと競技主管である公益財団法人日本自転車競技連盟のスタッフ

【セミバブル】

セミバブルは、大会期間を通して、大会運営等や各種業務の執務を行うスタッフを指し、ロードレースの特性上、レースバブルとの「接触」を回避できない場面があるため、「接触」がある前提で、事前の抗原検査及び当日の感染対策を徹底する。

【セミバブルに属するスタッフ】

大会ディレクター/事務局スタッフ/設営・運営チーム/宿泊・輸送チーム/
広報チーム/ライブストリーミングチーム/セレモニー担当チーム/
新型コロナウイルス感染症対策チーム/ニュートラルサービス/
オフィシャルメカニック/競技計測チーム/WEB担当チーム/レースドクター/
リーダージャージ提供スポンサー

*セミバブルがレースバブルと接触できる条件

- (1)大会参加3日前に抗原検査を受け、陰性を確認した後、大会参加前24時間以内に2度目の抗原検査を受け、陰性を確認する
- (2)大会開催10日前から大会終了5日後まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリにて提出
大会前は毎朝10時までに、大会期間中は毎日、宿泊施設出発前に提出
- (3)体調不良等の自覚症状がある場合、所定の手続きの上、大会会場に会場に来場しない
- (4)大会期間中、マスク着用を必須とし、適宜うがい・手洗い、手指消毒を行う

【バブル外】

ワクチン接種証明や、PCR検査/抗原検査等による陰性の確認がなく、検温、健康状態の記録の提出義務がない、上記のいずれにも属さない方

*バブル外の方がレースバブルと接触できる条件（レースバブルとの接触は原則不可）

- (1)双方マスク着用の上、バブル外の方はフェイスシールドを着用する
- (2)フィジカル・ディスタンス2m以上保つ
- (3)短時間（概ね15分以内）の接触に留める

TOJ開催中止の判断基準

TOJ開催中止の判断基準

- 1.日本政府より、大規模イベントの延期・自粛・中止要請が発令された場合
 - 2.UCIより、コロナ禍におけるレース大会の延期・自粛・中止要請が発令された場合
 - 3.大会開催前に下記のいずれかの理由により参加チームの出場辞退が発生し、出場チームが8チーム以下になる場合
 - (1)チーム内で新型コロナウイルス感染症罹患者が発生し、チーム内の他の選手やスタッフも隔離が必要な場合
 - (2)大会開催前に、日本政府が水際対策で指定する国や地域のレースに参加し、帰国後、待機期間が終了していない場合。

※水際対策による指定国・地域は、厚生労働省のホームページを参照
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00249.html
 - (3)選手の体調不良を含む傷病等の原因により、1チームの最低出場人数4名が確保できない場合
 - 4.大会期間中に新型コロナウイルス感染症のクラスター感染が発生した場合
 - 5.その他、大会を中止せざるを得ない事象が発生した場合
※詳細は、Tour of Japan 2022 OFFICIAL MANUAL「3 - 1緊急時の対応方針」に記載有り
- 以上、延期はしないものとする。

検温・健康状態の記録

レースバブル及びセミバブルに属するすべての方を対象とし、大会開催10日前から大会終了5日後（2022年5月8日～27日）まで、検温、健康状態の記録を所定のアプリ（テレサ）にて提出必須とする。大会開催初日をライセンスコントロールが実施される5月18日（水）と考える。
なお、バブル外ではあるが、各都県自転車競技連盟も使用する。

「レースバブル」「セミバブル」「マーシャル」の3つのカテゴリで管理し、それぞれの対象者に利用案内マニュアルを配布。

セミバブルのみ抗原検査の画像アップロードを行い、次ページからの全6ページは、セミバブル用のマニュアルである。「レースバブル」「マーシャル」には、画像アップロード説明を省いたマニュアルを配布。

テレサ使用説明書（セミバブル）

●「テレサ」とは？

「テレサ-体温記録活用アプリ-」は、毎日の検温や体調の記録をデータベース上で一括管理することができるアプリケーションソフトです。（開発元：株式会社新潟アルビレックスランニングクラブ）

Tour of Japan 2022では、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、本アプリを活用し、大会10日前から大会終了後5日間に亘り、皆様に検温及び健康記録の実施をお願いいたします。



Temperature (体温) **Re**cord (記録) **Sa**fety (安心・安全)

●対象者

レースバブル：選手／チーム関係者／審判

セミバブル：大会ディレクター／事務局スタッフ／設営・運営チーム／宿泊・輸送チーム／広報チーム／ライブストリーミングチーム／セレモニー担当チーム／新型コロナウイルス感染症対策チーム／ニュートラルサービス／オフィシャルメカニック／競技計測チームWEB担当チーム／レースドクター／リーダージャージ提供スポンサー

マーシャル：各都県自転車競技連盟

●アプリの事前登録 **5月5日までにご登録をお済ませください**
登録方法は次のページをご確認ください

●使用期間 **5月8日（日）～ 5月27日（日）**

●入力内容

【事前のアプリ登録】

- ・基礎情報 ※1
- ・会場入り予定日

※1

入力された個人情報は、健康管理においてのみ使用するもので、第三者に開示することはありません。

★5/5までにお済ませください

【毎日】

- ・毎朝の体温
- ・問診回答 ※2

※2

「37.5℃以上」あるいは「問診結果に異常がある」場合、「行動履歴」の設問が追加されます。

【特定日】

- ・実施済みの抗原検査キット画像



①アプリ登録（5/5までに登録をお願いします）

【1】インストール

ios :



Android :



【2】参加イベントの選択

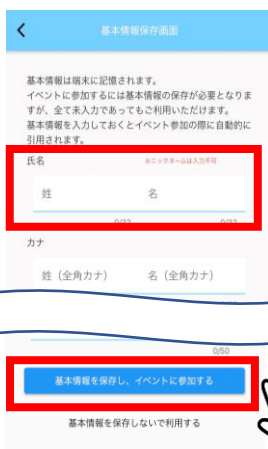
① 「参加イベントを選択する」

② 「イベントコードをお持ちの方はこちら」

③ 「OK」



④ <氏名>のみ入力をお願いします
「基本情報を保存し、イベントに参加する」



⑤ 「OK」



①アプリ登録（5/5までに登録をお願いします）

⑥「イベントコードをお持ちの方はこちら」



⑦コード：tojsemi パスワード：toj2022

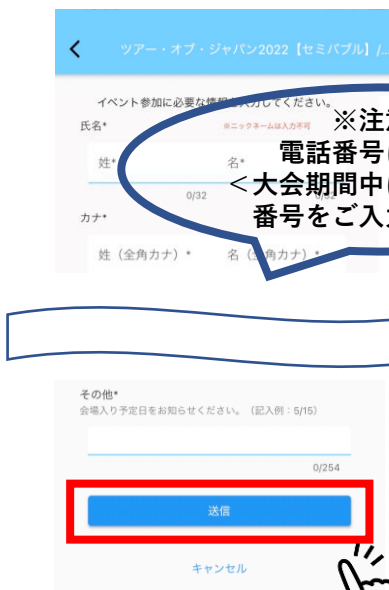


⑧「参加登録」



【3】必須情報の登録

⑨必須情報を入力し「送信」



⑩「OK」



登録完了！

②毎日の記録 (5/8～5/27)

記録のタイミング

大会期間外：毎朝10時まで

大会期間中：宿泊施設出発前

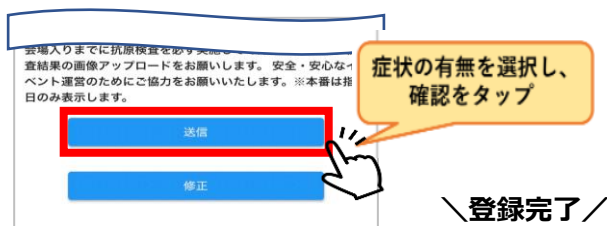
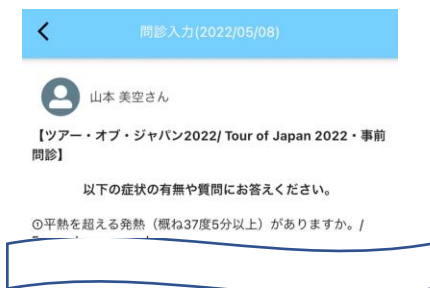
▼下記の手順で入力してください。

【1】検温入力



【2】問診入力

検温入力後、自動で問診画面へと遷移します



③実施済み抗原検査キット画像のアップロード

アップロードのタイミング

- 1回目：大会会場入り3日前（Anywhere迅速抗原検査）
- 2回目：大会会場入り24時間以内（チェックMR-Cov19）

画像アップロードの手順

①ホーム画面から
下記赤枠箇所をタップ



②下記赤枠箇所をタップし、
画像をアップロード



＼アップロード完了／

Q：いつまでに登録すればよいですか？

**A：5月8日よりスムーズに検温及び問診をご入力いただくためにも、
5月5日までにアプリ登録をお願いいたします。**

なお、検温および問診の入力期間は、会場入りのタイミングにかかわらず、
一律で2022年5月8日（日）～ 5月27日（日）です。

Q：入力した内容を変更するにはどうすればよいですか？

A：検温および問診の入力内容の修正が可能です。

検温→ホーム画面の右下「検温マーク」より、再度タップして入力してください。
2回目以降の変更は、すべて2回目の検温結果として表示されます。

問診→履歴画面から「一覧」を選択し、
「問診欄の数字」を選択してください。
修正を行うことが可能です。

Q：画面下部に出てくる「入場コード」とは何ですか？

A：TOJでは使用しません。

Q：抗原検査はいつ実施すればよいですか？

**A：送付した抗原検査キットの実施タイミングは下記の通りでございます。
キットは全2種類ありますので、キット名をご確認のうえ実施してください。**

- 1回目 実施日：**会場入りの3日前**
対象キット：**Anywhere迅速抗原検査**
- 2回目 実施日：**会場入りの24時間以内**
対象キット：**チェックMR-Cov19**

実施後は速やかにテレサ上で画像をアップロードしてください。

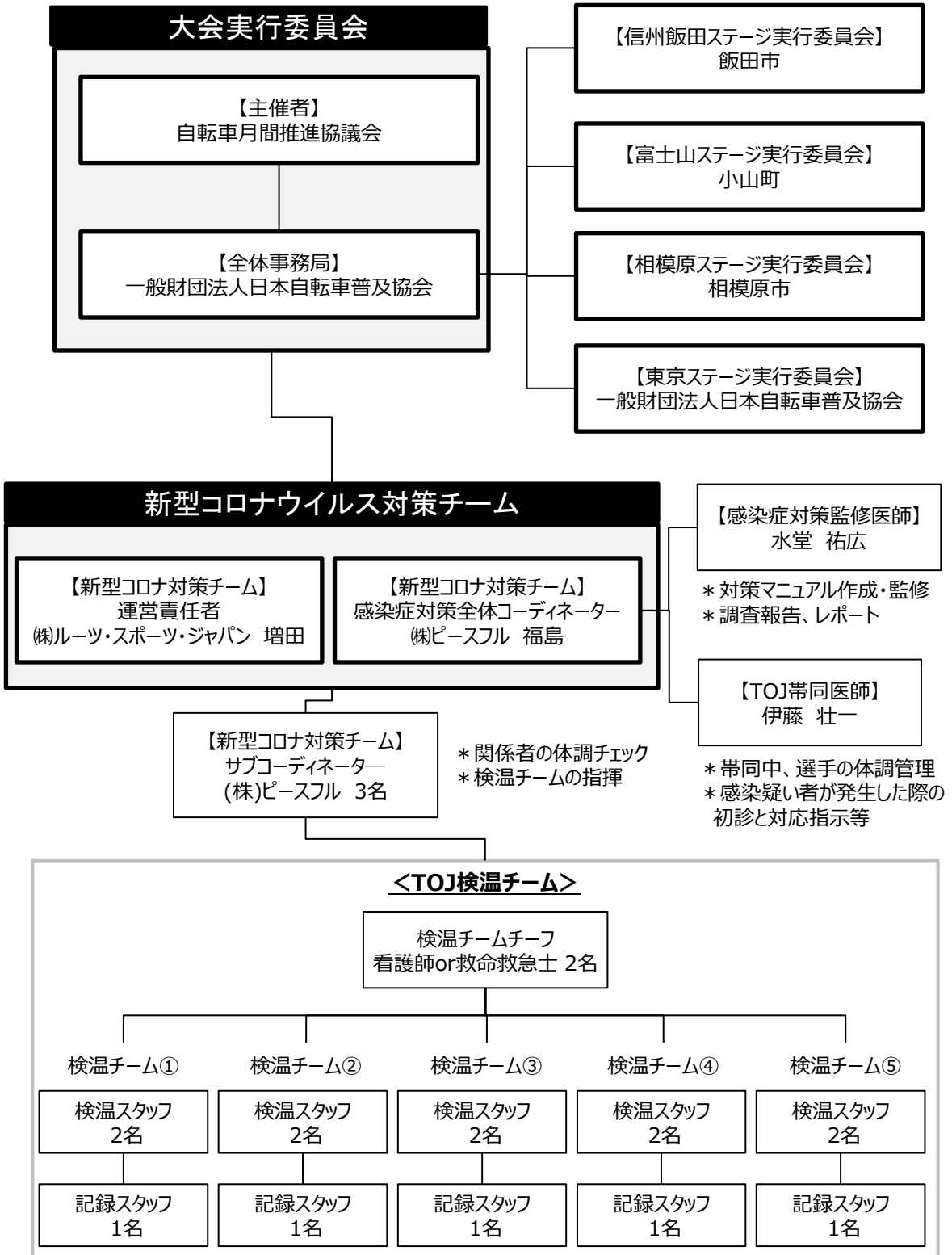
その他、テレサの利用につきましてご不明な点がございましたら、
下記担当者までご連絡ください。

<担当者>

山本 yamamoto.misora@roots-sports.jp

コロナ対策チーム

組織体制図



感染症専門家／医師

【TOJ帯同コロナ対策チーム医師】

伊藤 壮一（いとう そういち） [資 格]

[専門科目]

救急医学、蘇生学、医学教育学
災害医療（日本DMAT隊員）

- 日本救急医学会救急専門医・指導医
- JPTECコース世話人・インストラクター
- JATECプロバイダー
- ICLSコースダイレクター・インストラクター
- ISLSインストラクター
- 米国ABLSインストラクター
- 米国Team STEPPS train the trainer certification
- ケンブリッジ英検 first certification

[職 歴]

- 東京女子医科大学第四内科入局
- 川崎市立川崎病院 総合診療科
- 川崎市立川崎病院 救命救急センター 副センター長
- 麻生総合病院 救急総合診療科 部長
- 医療社団法人総生会 麻生総合病院 救急総合診療科

【新型コロナウイルス感染症対策監修担当医師】

水堂 祐広（すいどう よしひろ） [資 格]

[専門科目]

呼吸器内科、感染症内科、救急一般

- 日本呼吸器学会、**日本感染症学会専門医**
- 日本内科学会総合内科専門医・指導医
- 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医
- ICD制度協議会認定インフェクションコントロール
ドクター
- JMECCコースインストラクター
- ICLSインストラクターコースディレクター

[職 歴]

- 川崎市立川崎病院 総合診療科・救急科
- 川崎市立井田病院 呼吸器内科
- 神奈川県立循環器呼吸器病センター 呼吸器内科
- 藤沢市民病院 呼吸器内科
- 大和私立病院 呼吸器内科 藤沢市民病院
救急科兼任
- 麻生総合病院 救急総合診療科 内科兼任

コロナ対策 連絡先一覧

TOJコロナ対策担当者

所属		担当者名	連絡先
新型コロナ対策チーム 全体コーディネーター	(株)ピースフル	福島 圭介	Mail: fukushima@peaceful-hp.com TEL:090-6156-1313
新型コロナ対策チーム 運営責任者	(株)ルーツ・スポーツ ・ジャパン	増田 英行	Mail :masuda.hideyuki@roots-sports.jp TEL:090-1550-9149
主催者 (TOJ事務局 /東京ステージ)	(一財) 日本自転車普及協会	村山 吾郎	Mail: murayama@jifu.jp TEL:090-4076-8844
競技主管	(公財) 日本自転車競技連盟	狩野 萌	Mail: kano@jcf.or.jp TEL:080-3256-9286
信州飯田ステージ 実行委員会	飯田市	小島 滉平	Mail: ic4040@city.iida.nagano.jp TEL:090-4180-3549
富士山ステージ 実行委員会	小山町	鈴木 新一	Mail: suzuki_shinnichi@fuji-oyama.jp TEL:090-1414-5169
相模原ステージ 実行委員会	相模原市	川崎 翔太	Mail: kawasaki.yc@city.sagamihara.kanagawa.jp TEL:開催直前に決定

コロナ対策 連絡先一覧

各都県指定相談窓口・保健所

	平日	電話番号	左記以外	電話番号
飯田市/新型コロナウイルス感染症 受診・相談センター	8:30～17:00	0265-53-0435	24時間	—
長野県/発熱受診相談センター	8:30～17:15	026-235-7077	土日・祝	026-235-7077
発熱等受診相談センター 静岡県/御殿場保健所	8:30～17:15	050-5371-0561 050-5371-0562	土日・祝日	050-5371-0561
静岡県庁専用相談ダイヤル	8:30～17:15	054-221-8560	—	—
神奈川県/ 新型コロナウイルス感染症専門ダイヤル	24時間	0570-056774 045-285-0536	24時間	0570-056774 045-285-0536
相模原市/ 新型コロナウイルス感染症相談センター	24時間	042-769-9237	24時間	042-769-9237
東京都/発熱相談センター	24時間	03-5320-4592	24時間	03-5320-4592
東京都/ 新型コロナウイルス感染症電話相談窓口	9:00～22:00	0570-550571	9:00～22:00	0570-550571
港区みなと保健所	8:30～17:00	03-6400-0050	—	—
品川区保健所/保健予防課 感染症対策係	8:30～17:00	03-5742-9152	—	—
厚生労働省/相談窓口	9:00～21:00	0120-565653	9:00～21:00	0120-565653

各開催地における医療機関一覧

各開催地における医療機関一覧

下記は開催期間中受入可能な医療機関ではなく、感染疑い者の診察実績のある医療機関です。受診をする場合は医療機関へ向かう前にコロナ対策チームから連絡して確認をします。

【信州飯田ステージ】

医療機関名	外来	電話番号	住所
飯田病院	月～土 【8:15～16:00】	0265-22-5150	飯田市大通1丁目15
飯田市立病院	月～金 【8:30-11:30】	0265-21-1255	飯田市八幡町438
健和会病院	土曜外来有 月～金 【8:30-11:30】	0265-23-3115	飯田市鼎中平1936
輝山会記念病院	土曜外来有 月～金 【9:00-18:00】	0265-26-8111	飯田市毛賀1707

【富士山ステージ】

医療機関名	外来	電話番号	住所
富士小山病院 (小山町内)	月～金 【午前7:00～12:00】 【午後1:30～4:40】 * 休診日：日曜／祝日	0550-78-1200 (代表電話)	静岡県駿東郡小山町用沢 437-1
富士病院 (御殿場市内)	月～金 【午前11:30まで】 【午後16:30まで】 * 休診日：日曜／祝日	0550-83-3333 (代表電話)	静岡県御殿場市新橋1784

各開催地における医療機関一覧

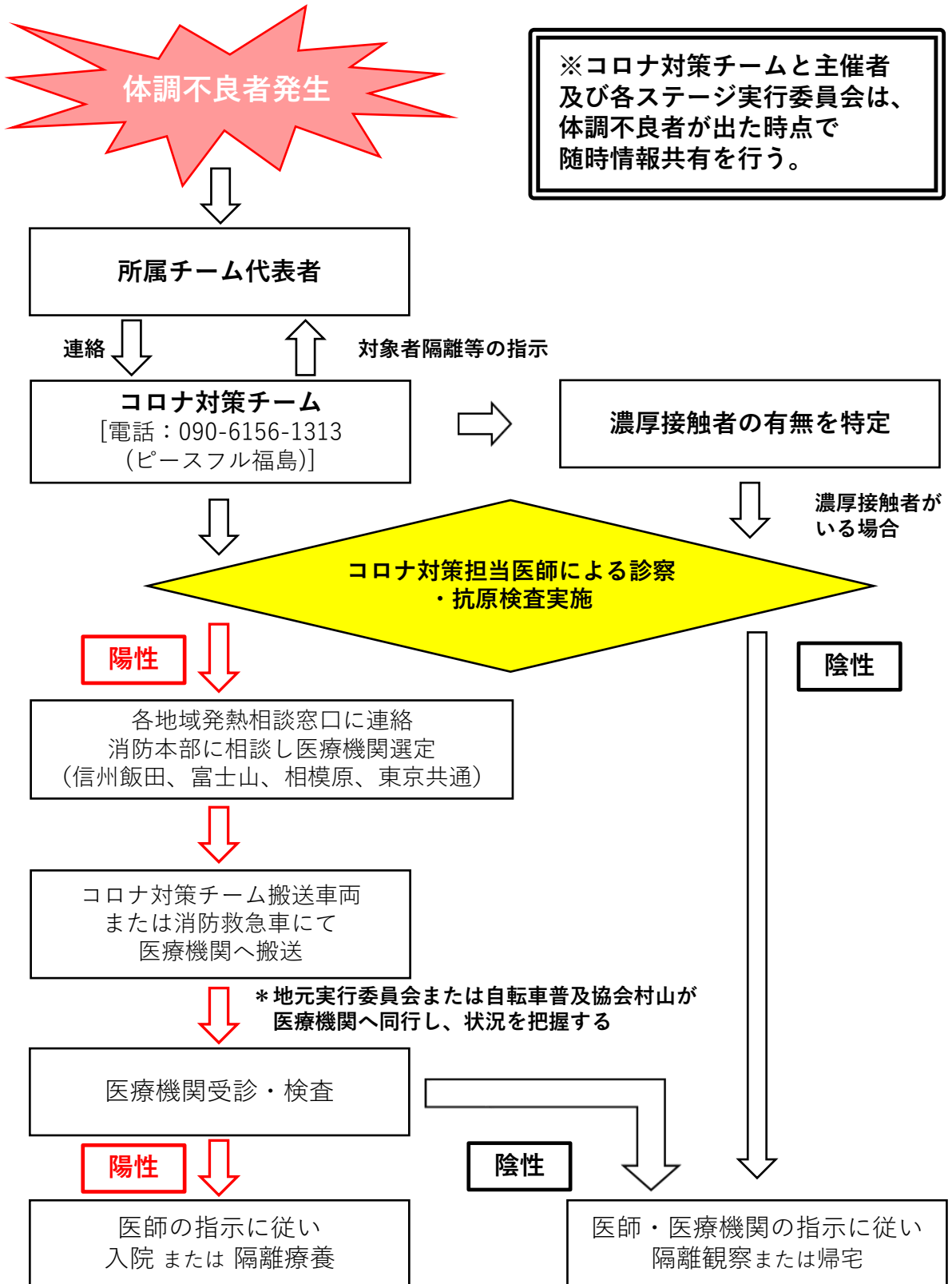
【相模原ステージ】

医療機関名	外来	電話番号	住所
総合相模更生病院	土曜外来有 【午前8:00-11:30】	042-752-1808	相模原市中央区小山3429
相模原中央病院	土曜外来有 【午前9:00-12:00】 【午後14:00-16:00】	042-754-2211	相模原市中央区富士見6-4-20
相模原協同病院	土曜外来有 【午前8:00-11:30】	042-761-6020	相模原市緑区橋本台4-3-1
相模原赤十字病院	土曜外来有 【午前8:00-11:30】	042-784-1101	相模原市緑区中野256
厚木市立病院	5/28夜～29朝 救急外来有	046-221-1570	厚木市水引1-16-36

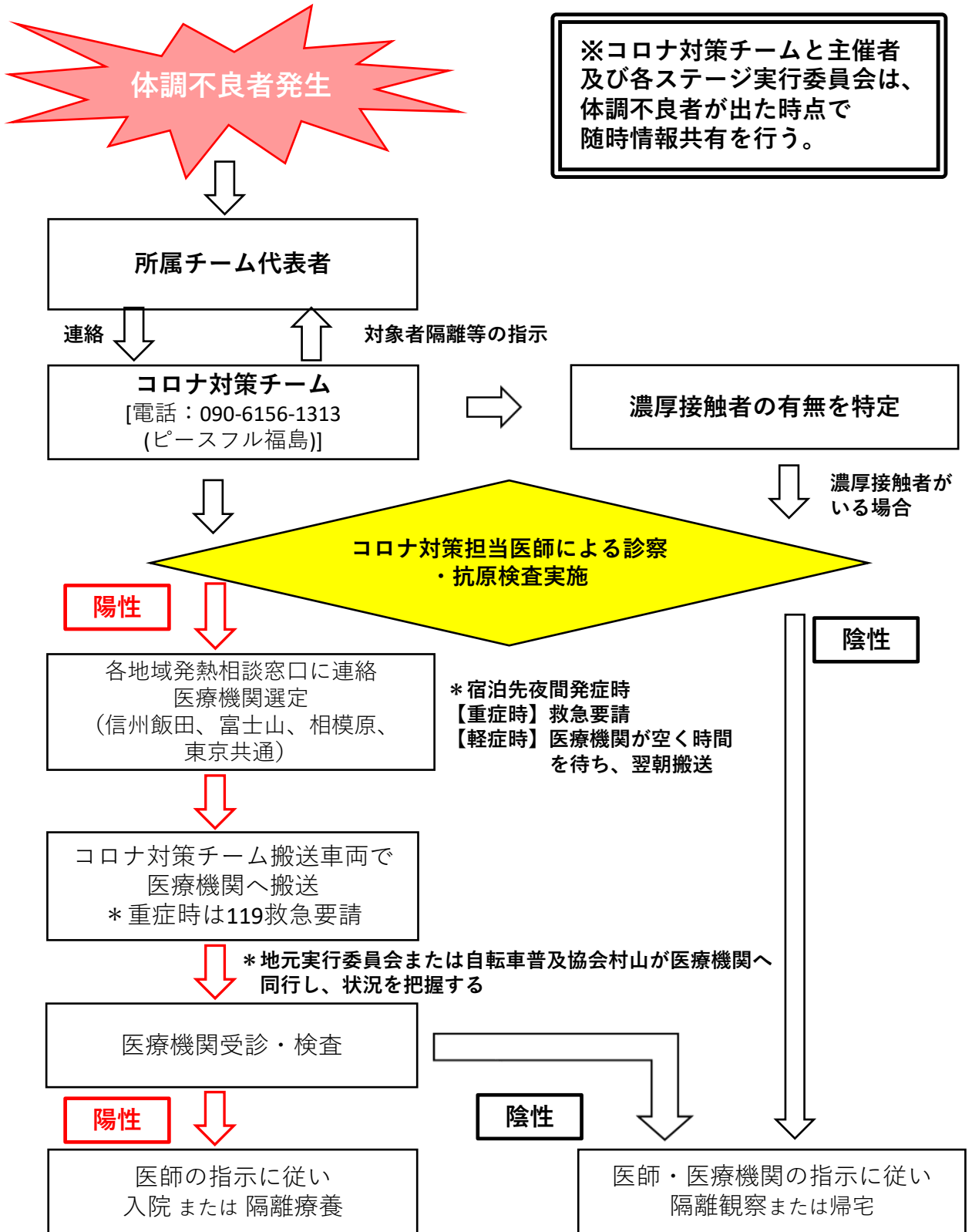
【東京ステージ】

医療機関名	外来	電話番号	住所
大井中央病院	救急外来	03-3777-0777	東京都品川区大井4-11-27
東京品川病院	救急外来	03-3764-0511	東京都品川区東大井6-3-22
第三北品川病院	救急外来	03-3474-1831	東京都品川区北品川3-3-7
東京労災病院	救急外来	03-3742-7301	東京都大田区大森南4-13-21
大森赤十字病院	救急外来	03-3775-3111	東京都大田区中央4-30-1

感染疑い発生時の緊急対応フロー（レース会場）



感染疑い発生時の緊急対応フロー（レース会場外）



感染疑い発生時の緊急対応フロー(陽性確定時)

陽性者(確定)が出た際、該当地域保健所が陽性者の行動履歴をヒアリングしてサーベイランスを約1日かけて行う。サーベイランスの結果次第で、濃厚接触者を確定する。

濃厚接触者とは

「濃厚接触者」とは、感染者(確定)の感染可能期間内(発症日の2日前から、診断後に隔離などをされるまでの期間)に、接触した者の内、次の範囲に該当する人とされている。

- 1.感染者(確定)と同居、あるいは長時間の接触(車内・航空機など)があった人
- 2.適切な感染防護なしに感染者(確定)を診察、看護もしくは介護した人
- 3.感染者(確定)の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い人
- 4.その他、手で触れることの出来る距離(目安として1メートル)で、必要な感染予防策(マスクなど)なしで15分以上接触があった人(周辺の環境や接触の状況等個々の状況から感染者(確定)の感染性を総合的に判断する)
(国立感染症研究所「積極的疫学調査実施要領」より)

「濃厚接触者」に該当するかどうかは、保健所が聞き取り調査を行った結果から、総合的に判断して決める。

ロードレースにおける濃厚接触者の可能性

濃厚接触者の最終的な判断は保健所が行うが、ロードレースにおいては以下が想定される。

<濃厚接触者に該当する可能性あり>

- ・所属チームメンバー(選手、スタッフ、監督)で宿泊、食事、移動を共にしていた人
- ・審判、ニュートラル、メディア、撮影、運営関係の自動車と同乗していた人
- ・運営事務局、準備室などで共に作業をしていた人

<濃厚接触者に該当する可能性が低い>

- ・ロードレースでの集団走行
- ・スタート整列
- ・屋外で3密を回避したミーティング

大会関係者が陽性者と確定された際の対応

保健所でのサーベイランスには約1日かかるため、結果が出るまでの間、濃厚接触者と判断される可能性のある人はレースへの参加、運営への参加を原則控える方向で、主催者、コミセール、コロナ対策チームで協議をする。

また、対外的な発表については開催地域(実行委員会)と協議をして判断する。

一般観客のTOJ観戦について

TOJ観戦

各会場にて、大型ビジョンを設営し、YouTubeによるライブストリーミング配信を実施

各開催会場

※大会会場来場7日前までに2回以上の新型コロナワクチン接種を推奨

- (1) TOJホームページに掲載するガイドラインを事前に確認し、遵守すること。
- (2) 感染症罹患の疑いがある、または発熱・体調不良等の自覚症状がある場合、大会会場に来場しない。
- (3) 大会会場入り口でサーモグラフィーによる検温を受け、発熱者や体調不良者は入場禁止。
- (4) 大会会場では、適宜手洗い、手指消毒を行う。
- (5) 大会会場内のチームピットエリアやゾーニングが儲けられたエリアへの立ち入り禁止。
- (6) 大会会場及びコース沿道で周囲に人がいる場所では、常時マスク着用必須。
- (7) 大会会場及びコース沿道で観戦する際は、大声での応援、発声等はしない。
- (8) 大会会場及びコース沿道では、フィジカル・ディスタンスに十分留意する。
- (9) 大会会場やコース沿道、公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置・廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底し、ごみを捨てない。
- (10) 会場内オフィシャルグッズ販売ブースを利用する際、必ずマスク着用の上、手指消毒を行うこと。

会場における検温所体制

検温所の概要

●使用機材

検温所は2か所の会場入り口にテントを設営し、検温所看板、テーブル、手指消毒アルコールを設置し、サーモグラフィカメラを使用して検温所を通過する来場者の検温を実施します。

検温所で 37.5℃ 以上を計測した場合には、体温計および問診票を使用して再検温を行います。

●人員配置

検温所各テントには検温スタッフ2名、記録員1名を配置します。

記録員は、検温数の記録を行うことと、発熱を検出した際の来場者の確保および検温所への案内を行います。

また、会場内には感染防止対策会場スタッフ3名が巡回し、アルコール消毒の利用を案内、感染リスクが高い状態が発生していないか監視します。

そして、再検温が必要な来場者がいる場合には、記録員が確保した来場者を感染防止対策会場スタッフが再検温所へ誘導を行います。

再検温所にはチーフ（医療従事者）を1名配置し、検温所で 37.5 以上を計測した場合に再検温及び体調等の問診を実施して感染の疑いがないかを判定します。

●検温フロー

検温および再検温では以下のフローに従って入場の可否を判断します。

<入場可能>

検温所 37.4℃ 以下

検温所 37.5℃ 以上 再検温 37.4℃ 以下 問診結果問題なし

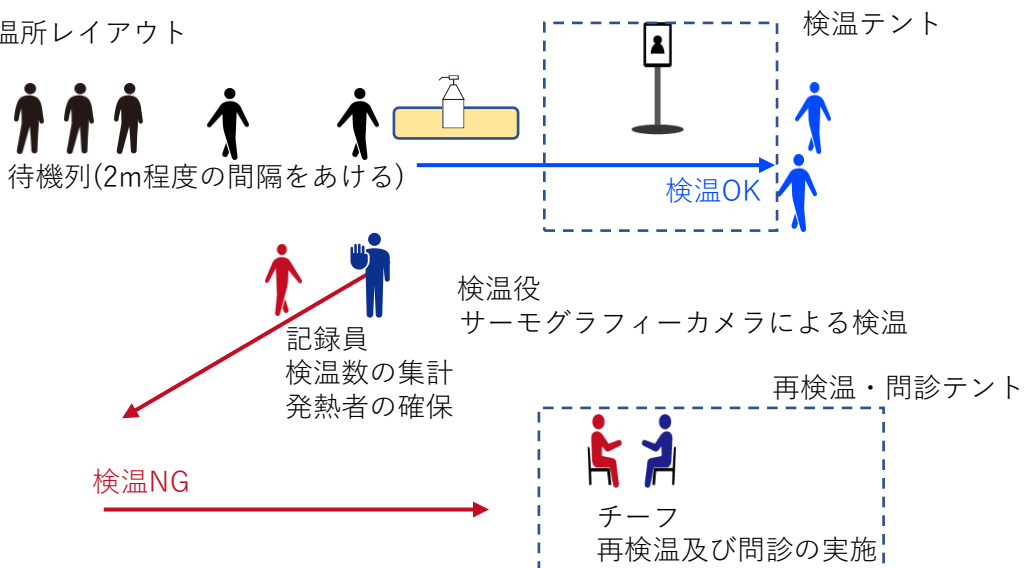
<入場不可>

検温所 37.5℃ 以上 再検温 37.4℃ 以下 問診結果問題あり

検温所 37.5℃ 以上 再検温 37.5℃ 以上

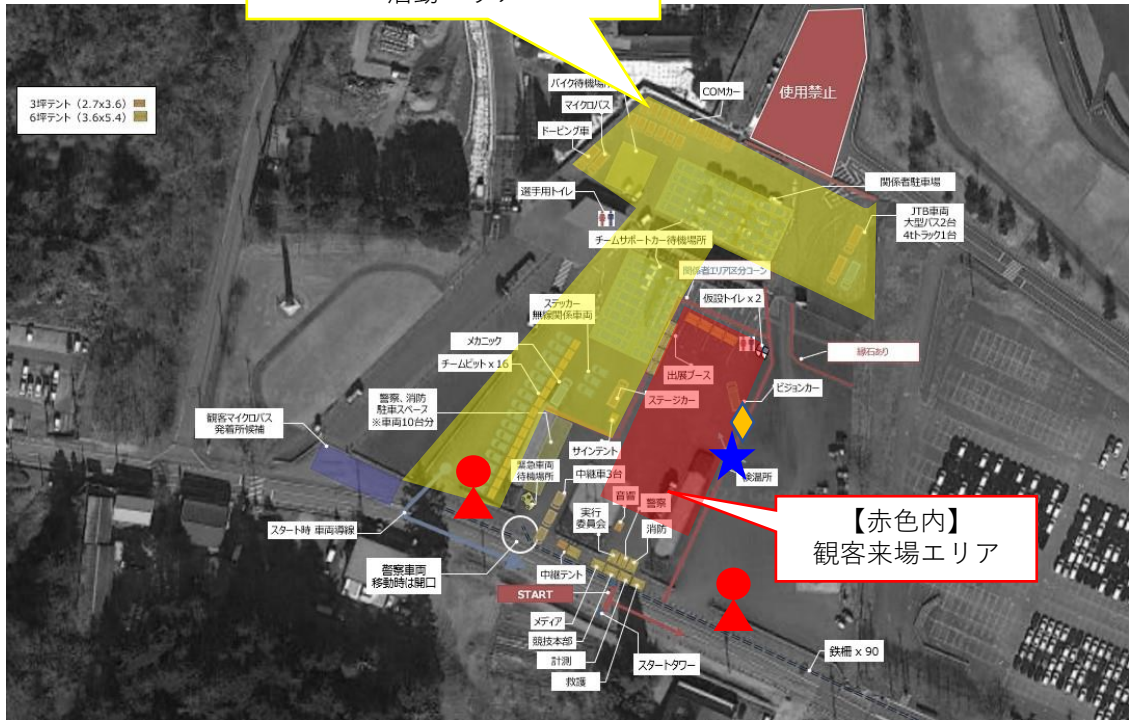
※バブル内のメンバーは、毎朝アプリ（テレサ）での体温の提出義務があるため、検温所では検温せず通過可能（通過対象者の目印として、緑色のシリコンバンドを事前に配布）

●検温所レイアウト



スタート

【黄色内】
レースバブル/セミバブル
活動エリア



【赤色内】
観客来場エリア

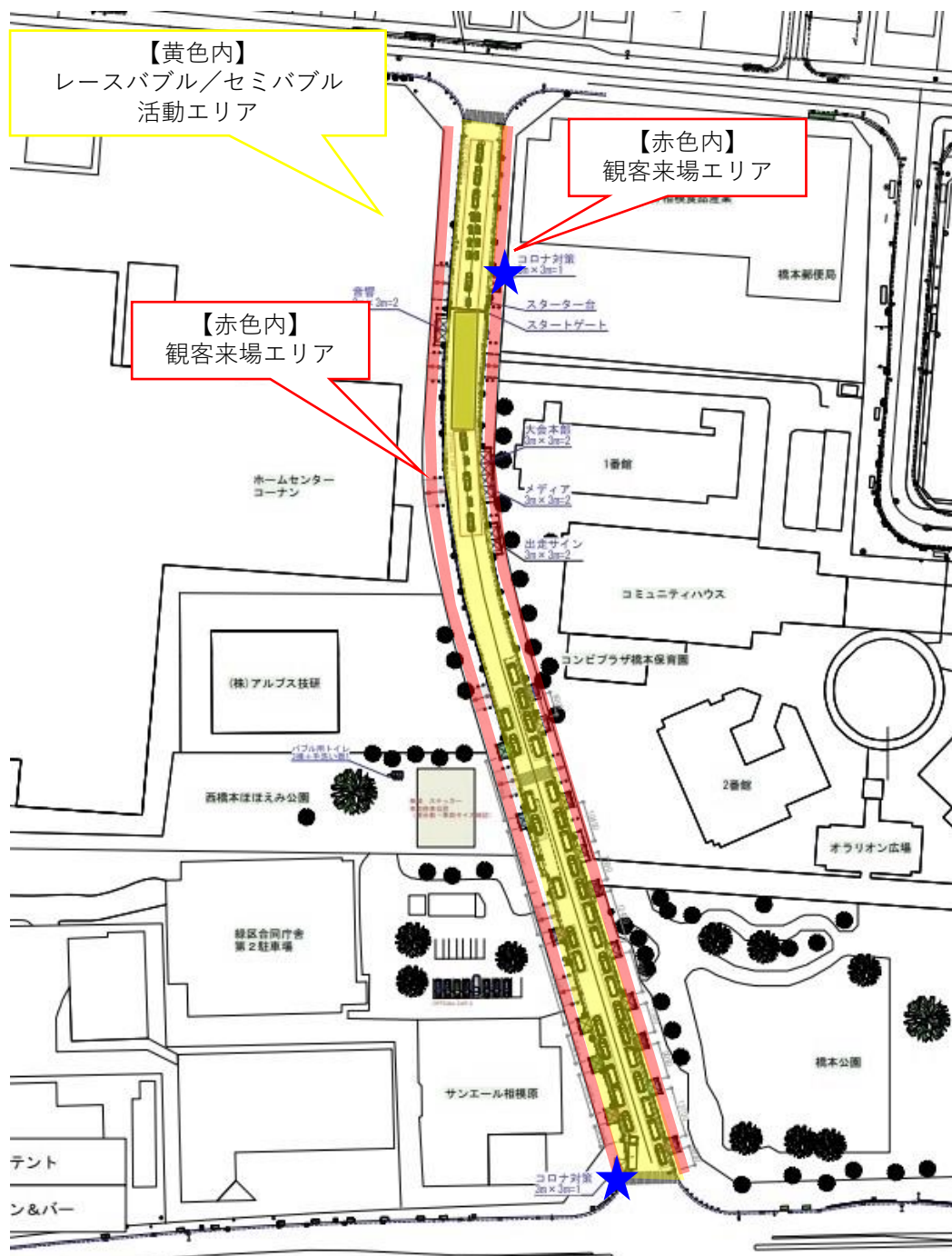
- ★ : 検温所
- ▲ : 感染対策アナウンス
- ◆ : 再検温テント (場内救護)

フィニッシュ



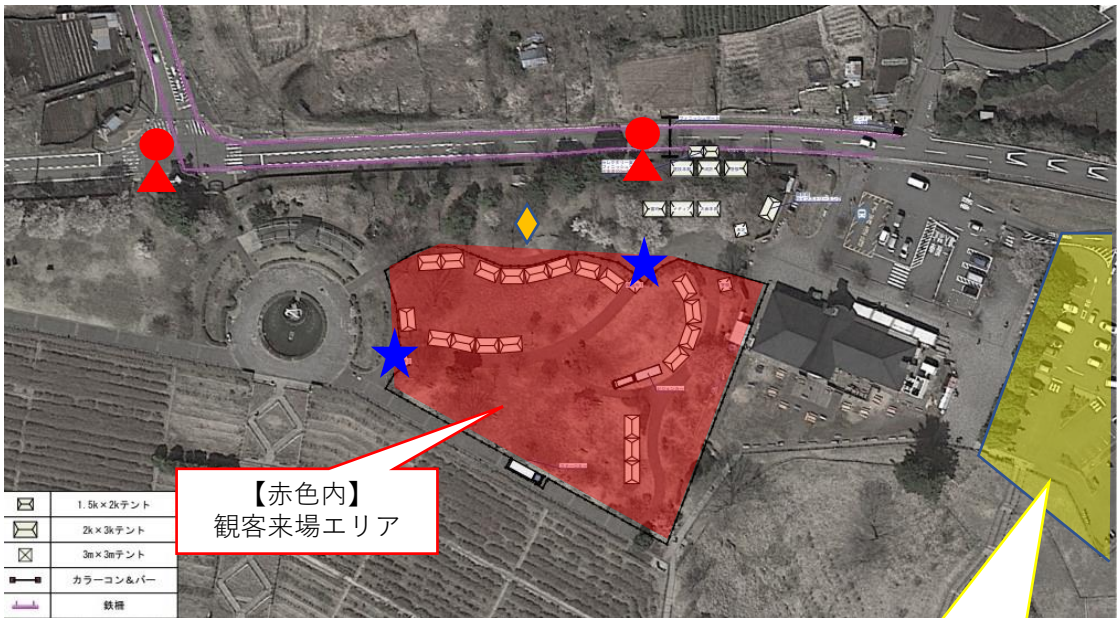
スタート

- ★ : 感染対策テント
- : 感染対策アナウンス

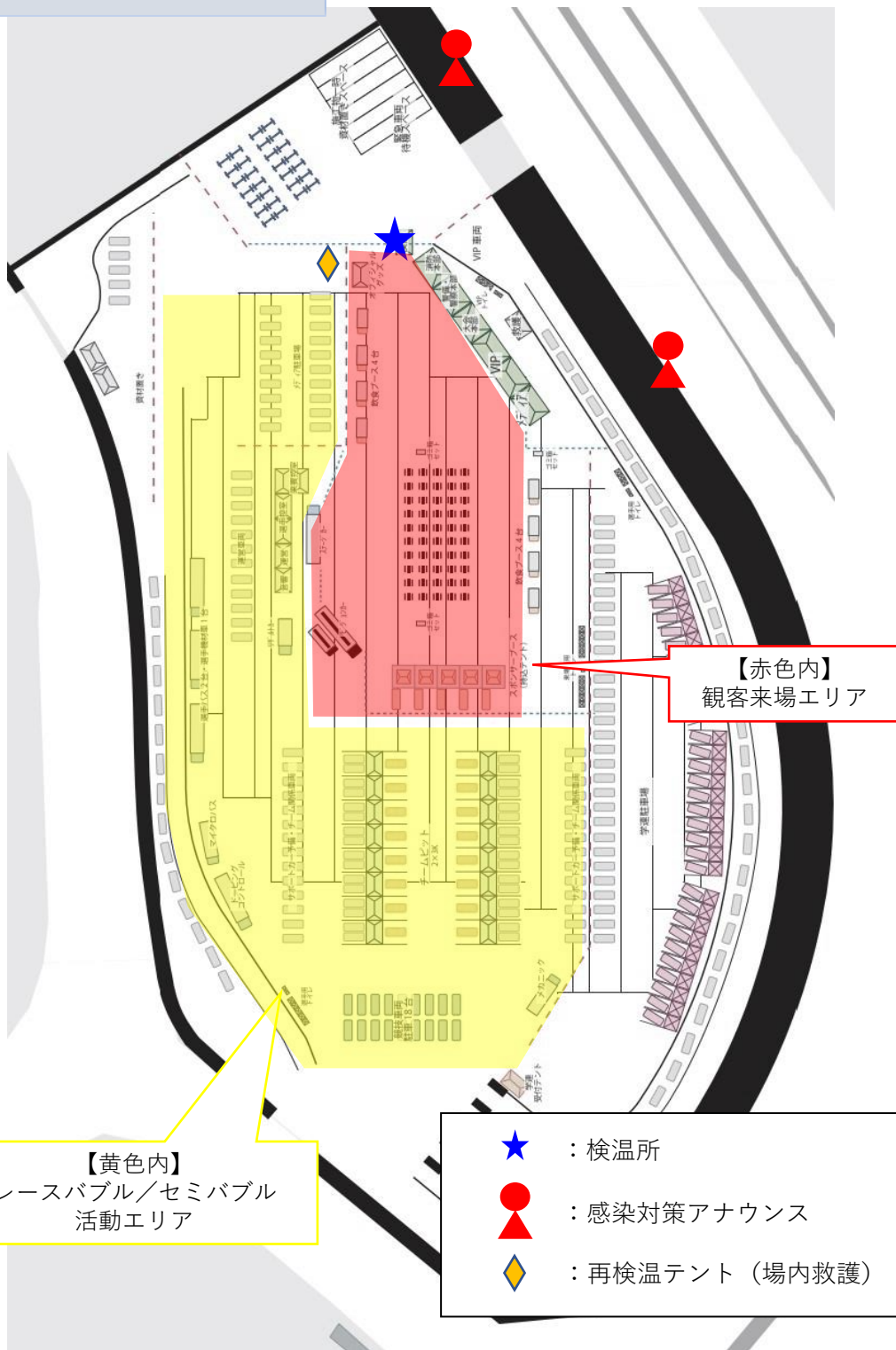


フィニッシュ

- ★ : 検温所
- ▲ : 感染対策アナウンス
- ◆ : 再検温テント (場内救護)



スタート／フィニッシュ



【黄色内】
レースバブル／セミバブル
活動エリア

【赤色内】
観客来場エリア

- ★ : 検温所
- ▲ : 感染対策アナウンス
- ◆ : 再検温テント (場内救護)

会場設置注意喚起看板（全ステージ共通）

会場設置注意喚起看板（全ステージ共通）

H1500×W900 自立式

コロナウイルス 感染予防対策実施中！

ご理解とご協力をお願いします。



マスク着用 手指消毒 ゴミの持帰り



大声の声援禁止 フィジカルディスタンス
1-2mの確保 COCOA 推奨

お守りいただけない場合、退去をお願いする場合がございます。
体調が悪くなった方は、速やかに帰宅しましょう。

日本郵船 2022  この事業は競輪の補助を受けて実施いたします。

【検温所】

新型コロナウイルス
感染予防対策実施中！

サーモグラフィによる検温を実施します。
ご理解とご協力をお願いします。



感染拡大防止のため、
37.5℃以上の発熱が認められる方は、
会場内へのご入場をお断りいたします。
また、微熱がある方は再検温をさせていただきます。

*再入場時も検温いたします

日本郵船 2022  この事業は競輪の補助を受けて実施いたします。

会場内 3枚
検温所 5枚

検温所 5枚

コロナ対策備品リスト

コロナ対策備品リスト

【関係者配布物】

備品	数量	備考
ハンディタイプ非接触型検温機	16	-各チーム1個（16チーム）希望制
消毒液噴霧器（ボトル）	83	-出場チーム16本 -設営運営チーム10本 -宿泊輸送チーム10本 -広報チーム3本 -主催者6本 -他運営会社や会場内設置38本
消毒液噴霧器（トリガータイプ）	10	-全体予備10本
飛沫防止パネル	9	-ライセンスコントロール3枚 -ツアーデスク2枚 -実況席3枚 -予備1枚
フェイスシールド	1,580	「設営・運営」「宿泊輸送」 「広報業務」「出場チーム」 「主催者」へ日数配布 * 個包装マスクは検温所にて 不織布マスク以外の方へ配布
マスク	1,580	
個包装マスク	630	
ゴム手袋	1,520	

【帯同医師診察・検査キット】 * 伊藤医師が所持

備品	数量	備考
救急セット	1式	体調不良者対応用
緊急抗原検査キット	1式	現地での検査用 * 会場内、宿泊先を想定

コロナ対策備品リスト

コロナ対策備品リスト

【検温所・コロナ対策チーム所持】

備品	数量	備考
サーマルカメラ (BS-K1TA70MI-T)	6	2022年購入分 (メイン利用)
非接触型サーモグラフィ (FLIR E4-XT)	2	2021年購入分 (予備利用)
ハンディタイプ非接触型検温機	適量	貸出希望が無かった分を活用
会場内検温所及び注意喚起看板	13	
防護服	10	
除菌シート (100枚入り)	100	
会場内検温所テント	5	テーブル込
消毒液噴霧器 (トリガータイプ)	10	感染対策チーム場内消毒用
TOJ感染症対策スタッフビブス	100	23名×4日分+予備



サーマルカメラ
Bitstrong社
BS-K1TA70MI-T



機種名: FLIR E4-XT



参考・出典

○UCI（国際自転車競技連合）

「Emergency rules to be followed for the resumption of the road cycling season in the context of the coronavirus pandemic – コロナウイルスパンデミックに関連したロードシーズン再開にあたって守られるべき手順について」

<https://www.uci.org/road/news/2020/covid-19-pandemic-how-to-return-to-cycling-events>

○UCI

「Rules to be applied for the organisation of road cycling competitions in the context of the COVID-19 pandemic-ロードサイクリング競技会の開催に適用される規則COVID-19パンデミックの環境で」

<https://www.uci.org/pressrelease/the-uci-updates-its-covid-19-health-protocol-for-road-cycling-events-in-2022/6WypWI73KkkKR6k3wkq0sR>

○公益財団法人日本スポーツ協会

「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」

<https://japan-sports.or.jp/about/tabid1278.html>

○公益財団法人日本自転車競技連盟

「緊急事態宣言解除後の大会開催に向けたガイドラインについて」

https://cutt.ly/JCF_guidelineaboutcovid-19

○国土交通省

「新型コロナウイルス感染症に関する国土交通省の対応」

https://www.mlit.go.jp/kikikanri/kikikanri_tk_000018.html

○厚生労働省

「新型コロナウイルス感染症について」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

○厚生労働省

「感染拡大防止と医療提携体制の整備－受診・相談センター／診療・検査医療機関等」

https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kansentakudaiboushi-iryouteikyoku.html#h2_2

○厚生労働省

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）病原体検査の指針」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000678571.pdf>